「劇団創造座と風波の足跡」

6月10日研究会の報告（京都市東山いきいき市民活動センター）　山本正志

●これまでの研究会で次々と新しい発見が

2011 年 1 月に発足して現在も続いている「京大学生運動史研究会」については、2012 年 9 月 20 日の京都の民主運動史を語る会例会でお話をしています（機関誌「燎原」209 号）。

私の在学は1965年から1971年の6年間ですが、この間には「自衛官入学反対闘争」（全学スト、総長団交）、いわゆる「学園紛争」（全共闘の暴力・封鎖との闘い）も経験しました。何よりも「反戦・自由」の京大の伝統は、戦前の河上肇や滝川事件当時の先輩たちの奮闘が戦後に引き継がれており、戦後の学生運動でも大きな役割を果たした先輩たちの苦難の闘いがあったことを忘れることはできません。しかし、1952 年の「天皇事件」や「荒神橋事件」などの記録は残されているものの、自治会活動を中心とした学生運動とともに民主的サークル活動、共産党学生細胞の活動などの正確な記録はあまり残されていないのが現状です。

そのためか、偽りや歪曲されて伝えられてきた記録も少なくありません。（安保闘争前夜の北小路敏らによる「京大学生細胞解散宣言」など）。研究会のテーマは歴史の発掘が中心になりますが、例えば 1945 年終戦直後から大学は学園復興運動などが盛んになってくるわけですが、「京大学生細胞というのは誰が作ったのか」という記録は残されていませんでした。ところが、元共産党大阪府委員会委員長の定免政雄さん（1947 年 9 月卒）を鰺坂真先生と一緒に自宅に訪ねてお話を聞きましたが、定免政雄さんのお話では「私たちの頃の学生細胞は 100 人くらいいました。最初に京大で細胞を立ち上げたのは映画監督の若杉光夫さんでした」とのことでした。

研究会発足後しばらくして、ある人から段ボール箱に入った書類などを渡されましたが、開いてみると、1950 年ころからの共産 党地下組織の発行した「平和と独立のために」や「黎明」（京大細胞発行）といった文書や内部資料と思われる「会議メモ」なども多数ありました。 京大文書館には松尾尊兊さんや尾崎芳治さんなどが寄贈した「戦後学生運動関係資料・目録」が整理されていますが、手元にある段ボールの資料には新たなビラや会議録などもあり、興味は尽きません。また、会員から手持ちの資料が次々と寄せられ、その他にも大阪市立大学など各地の大学資料室・図書館にも貴重な資料が残されていることもわかってきました。

研究会では、様々な分野のサークル活動も取りあげ、京大唯物論研究会、京大合唱団、部落問題研究会、京大新聞社などの活動に関わってきた人たちの話もお聞きしてきました。私が入学した 1965 年 6 月の自治会選挙で同学会（全学自治会）を民主化を勝ち取りましたが、その最初の同学会委員長は村上治充さんでしたが、彼は合唱団の出身でした。

●創造座と風波の資料発見、劇団 OB との出会い

6 月 10 日の研究会では「京大の学生劇団創造座と風波の足跡」のテーマで山本が話をしました。当日は創造座の OB の方々が 6 人参加されました。

私の方からはこれまで探し続けてきた創造座と風波の当時の公演記録などをプロジェクターで示しながら皆さんに当時の思い出を語っていただきました。

私が 1965 年の入学した当時は、京大の西部講堂の北側にあった同学会ボックスの隣に創造座と風波のボックスがあり、当時劇団員の人たちが西部構内で発声の稽古をしていたのを覚えています。

私は研究会発足後、創造座と風波の資料を探してきましたが、京大新聞の「劇評」欄に時折取りあげられた記事以外、手がかりはつかめませんでした。

ところが昨年、インターネット検索で「京大創造座想い出の会」というブログを発見しました。その中の一人で大竹仁子さん（嵯峨美大名誉教授）が鳴滝に住んでおられることがわかりました。そこで大竹さんにお手紙を差し上げたところ、お電話をいただき、手元にあった創造座の資料は京大文書館に寄託したということでした。京大文書館に行って創造座の資料を閲覧すると、当時の公演パンフレットや舞台写真などが残されていました。その後昨年 12 月、大竹さんのお宅に伺って当時の思い出をお聞きし

ました。

風波についてはさらに探し続けてきたのですが、京都学・歴彩館（元京都府立総合資料館）の資料の中に「京都大学関係公演パンフレット」があるのを見つけ、資料を閲覧しました。この中に風波の「育ち行く芽」の公演パンフレットが1部だけありました。そこにスタッフやキャストとして名前があった方々の中で川端藤吉郎さんという方が滋賀県野洲市にお住まいということがわかり、お手紙を差し上げました。そうすると川端さんから、「劇団風波の歩み」「劇の思い出―風波劇団史感想文」という二つの印刷物が送られてきました。そこには劇団風波の公演記録、舞台写真などが一冊にまとめられてありました。そこで直接川端さんにお会いすることになり、5月1日に滋賀県野洲市の自宅に伺って話をお聞きしました。風波も創造座と同じようにOB会を続けてきており、今年も12月に予定されているということです。

●<u>創造座の歩み</u>

1946年 5月　京大演劇部再建

1949年 5月～1951年 2月まで京大演劇部研究発表会として公演。

1951年 4月　京大創造座として新しくスタート、6月　発足記念公演　木下順二「山脈」、12月　第2回公演　ゴーリキー「どん底」、以後チェーホフ、アーサー・ミラーなどの作品を上演、1969年第36回公演までの記録が残されています。

京大創造座想い出の会は、1988年6月73名で創立、以後1年おきに2014年10月まで主に京都で開かれています。

資料をみると、人間座の芦田鉄雄さん、同じく人間座にいた小沢文也さん、そして京大職員組合の書記長（1967～1970年）だった小山俊一さんも創造座にいたことがわかりました。（映画監督の大島渚氏も当時創造座に所属）

＜資料＞『大島渚著作集』第1巻より

「そのうち、学生劇研が名称を改めて創造座という劇団に衣更えすることになった。劇研というような超年代的に存在するかたちは廃止しよう。名実ともに劇団にしようということで創造座という名称に生れ変ったわけです。発足当時の創造座には、旧制高校出身のボス連中で、こと芝居に関しては自分たちが上手なんだと信じているグループと、旧制.新制を問わず、芝居は下手だが、自分たちは共産党員で、正しい理論を身につけていると称するグループが一大勢力を占めていて、この二つのグループの連合体が結局勝利するわけです。」

●芦田鉄雄さんのこと

私が人間座の芦田鉄雄さんと知り合ったのは、1980年に共産党京都府委員会の文化部担当になってからのこと。芦田さんが学生時代に創造座に関わっていたという話は聞いたことがありましたが、それ以上深く知ることはありませんでした。芦田さんは2005年11月に亡くなりましたが、2007年4月14日に「芦田鉄雄さんを偲ぶ集い」が人間座スタジオで行われました。この時「人間・芦田鉄雄」というパンフレットも発行しました。

創造座で芦田さんの記録をピックアップすると、1949年7月　京大文学部入学　51年4月　創造座結成に参加　6月　発足記念公演木下順二「山脈」で企画　52年11月　第4回公演　クルツコフスキ「ドイツ人」に出演　53年6月　第5回公演　チェーホフ「路上」で舞台監督、この公演パンフに「山脈から路上まで」と題するスタニスラフスキー・システムに関する論文を執筆しています。

芦田さんの少し後、小山俊一さん（1955年4月経済学部入学　1967～1970年京大職員組合の書記長、その後国大教組書記長）も創造座にいました。1956年5月　第10回公演 木下順二「風浪」、11月　第11回公演 ゴーリキー「どん底」に出演しています。

芦田さん、小山さんとも卒業者名募には名前はありません。

小沢文也さんは1953年文学部入学、後に劇団人間座で活動、芦田鉄雄さんも人間座に加わっています。

<u>創造座の歩み（年表）</u>

1946年 5月　京大演劇部再建

1949年 5月　京大演劇部研究発表会　青江舜二郎「実験室」、堀田清美「子ねずみ」

11月　京大演劇部研究発表会　田中小太郎「興安櫻」

1950年5月　京大演劇部研究発表会　黒川敏郎「泥船」

11月　京大演劇部研究発表会　木下順二「彦一ばなし」、伊藤久「剃髪式」

1951 年 1 月　京大演劇部研究発表会　田中小太郎「道化の歌」
2 月　京大演劇部研究発表会　チェーホフ「結婚申し込み」、ヴィルドラック「商船テナシチィ」
4 月　京大創造座として新発足
6 月　発足記念公演　木下順二「山脈」
12 月　第 2 回公演　ゴーリキー「どん底」
1952 年 6 月　第 3 回公演　モルナール「リリオム」
11 月　第 4 回公演　クルツコフスキ「ドイツ人」
1952 年 6 月　第 5 回公演　チェーホフ「路上」
7 月　小発表会　木下順二「彦一ばなし」
11 月　小発表会　チェーホフ「結婚申し込み」
1954 年 1 月　小発表会　鈴木政男「ミー子とおらく」
4 月　小発表会　木下順二「瓜子姫とアマンジャク」
6 月　第 6 回公演　木下順二「山脈」
11 月　第 7 回公演　オデッツ「レフティを待ちつつ」
1955 年 6 月　第 8 回公演　和田勝一「大和の村」
12 月　第 9 回公演　鈴木政男「サークル物語」
1956 年 5 月　第 10 回公演 木下順二「風浪」
11 月　第 11 回公演 ゴーリキー「どん底」
1957 年 5 月　第 12 回公演 鈴木元一「制輪子物語」
12 月　第 7 期生卒業公演 プリーストリー「夜の来訪者」
1958 年 5 月　第 13 回公演 アーサー・ミラー「セールスマンの死」
8 月　田中千禾夫「おふくろ」　チェーホフ「悪党」
11 月　第 14 回公演 ロルカ「ベルナルダ・アルバの家」
1959 年 6 月　第 15 回公演 アラルコン「三角帽子」
11 月　第 16 回公演 ヴァイアン「フォスター大佐の服罪」
1960 年　春　第 17 回公演 アーサー・ミラー「セールスマンの死」
秋　第 18 回公演 アーサー・ミラー「るつぼ」
1961 年 6 月　第 19 回公演　椎名麟三「蠍を飼う女」
12 月　第 20 回公演　福田啓之「遠くまで行くんだ」
1962 年 3 月　アトリエ公演　イオネスコ「授業」チェーホフ「熊」「結婚申し込み」
7 月　第 21 回公演　アーノルド・ウェスカー「大麦入りのチキンスープ」
12 月　第 22 回公演　イオネスコ「犀」
1963 年 7 月　第 23 回公演　サルトル「悪魔と神」
12 月　第 24 回公演　アーサー・ミラー「セールスマンの死」
1964 年 7 月　第 25 回公演　イオネスコ「椅子」「禿の女歌手」
秋　第 26 回公演　「新しい下宿人」
1965 年　春　第 27 回公演　小池史朗「わ」
秋　第 28 回公演　イオネスコ「義務の犠牲者」
1966 年　春　第 29 回公演　？？？
創造座・風波の 5，6 回生の作った劇団が「勝負の終わり」「ゴドーを待ちながら」「椅子」を上演
1967 年　春？秋　ピランデルロ「ヘンリー4 世」
1968 年　春　第 33 回公演　イオネスコ「瀕死の王」
1969 年　春？秋　第 36 回公演　イオネスコ「義務の犠牲者」　秋　第 30 回公演　別役実「門」

「山脈」オールスタッフ・キャスト

●風波の歩み

1950年　中国研究会設立　1951年 12月「阿Q正伝」公演（中研魯迅祭）に続いて1952年「小二黒の結婚」、「ろん・しゅい・ごう」公演、1953年内灘基地闘争に参加、1954年11月「育ちゆく芽」公演、1961年7月「風化」広島巡回公演、1964年6月第24回公演までの記録が残されています。

京大新聞1957年6月24日号によると、「中国研究会として発足し、中国芝居の紹介をというねがいから「阿Q正伝」を取り上げ、それから中国研究会の演劇サークルが独立して風波となった。取り上げてきたテーマは比較的社会意識を含むものが多かった。」

1961年夏には、原爆被爆者をテーマとしたこばやしひろし作「風化」を取り上げ広島県下、尾道市、三原市、竹原市、西条市、呉市、広島市、福山市の巡回公演を成功させています。

●劇団風波「育ち行く芽」事件:

1953年夏の内灘での風波公演に京都女子大生3名が無許可で参加、反則行為とされ処分（告諭）された。その後も1954年11月に京大演劇コンクールで「育ちゆく芽」が上演され、京女大生 5 名が出演、12月に無期停学5名などの処分が発表された。（私は京都女子大学図書館で当時大学新聞局発行の「東山タイムス」を閲覧した）。

今回この時処分された板東節子さんが神戸市にお住まいと聞いて、訪ねてお話をお聞きしたが、坂東さんは「育ちゆく芽」のシナリオを保存していた。その他劇団に在籍していた方にもお会いすることができた。

創造座の資料だけでなく風波の資料もぜひとも京大文書館に寄託（寄贈）していただくことができればと願っています。

＜資料＞「育ち行く芽」シナリオから:

ここは、古い都、京のある私立女子大学の寮の一室。その部屋には、色々なタイプの女子学生がいる。「洗濯場を拡げてほしい」「学外団体に自由に入ってもいいように」等、寮生たちは各々文句を云っている。その頃学校の封建性をついたビラや新聞が流され、学校側はやっきとなってその犯人を捜していた。

３ヶ月たって、洛大の歴研では、全京都歴史研究発表会の準備に急いでいた。「親のきめた結婚なんかしたくない」と云う和子は、歴研に入っているために、学校側から圧迫を加えられる。洛大ではフォークダンスが始まっている。歌ったり踊ったりしたいというみんなの願いは誰も潰すことができなかった。フォークダンスにも行かせないという学校側に対する不満は全学生の間に広まった。冬休みが近づいている。寮生の間にも力強い血が流れ始めていた。色々なことが起った。今日は学生大会だ。みんなが行った。大学当局は寮長を首にした。封建性と官僚主義をバクロしながら学校側は動揺しだした。そしてその中で学生たちの芽はたくましく育って行くのであった。

この二つの劇団の他に医学部の学生を中心にした劇団炎座があったということも京大新聞の記事にある。参加した方の名前も不明で医学部図書館で調べてもらったが、学生のサークル活動などの記録は残っていないということで今のところ手がかりはない。

風波の歩み（年表）

1950年　中国研究会設立
1951年12月1~2日　「阿Q正伝」公演（中研魯迅祭）、12月24日（労働会館）
1952年6月8~9日　「小二黒の結婚」公演（文化祭参加）、 6月（加悦農村公演）
12月6~7日　「ろん・しゅい・ごう」風波第1回公演（西部講堂）
1953年2月27~3月3日　「北京のどぶ（ろん・しゅい・ごう）」劇団京芸公演に参加
6月初旬　東京公演に参加.
6月27~28日　「離婚、彦市ばなし」風波第2回公演（文化祭参加）
7月　「彦市ばなし」上演（内灘基地闘争に参加）
8月~9月　「北京のどぶ（ろん・しゅい・ごう）」劇団京芸北海道公演に5名参加
9月下旬　京都大阪公演に参加
11月14日　「内灘」公演1幕物（文化祭参加）
11月23日「内灘」公演1幕物（朝戦民主化同盟文化祭・西京極小学校）
12月5~6日「内灘」風波第3回公演3幕物
1954年1月　「乞食（かんじき）の歌」（河上祭に参加）

3 月　「内灘」3 幕「彦市ばなし」（奥丹後地方巡回公演）
6 月 26~27 日　「桃、欅の木の下で」風波第 4 回公演（京大記念祭）
11 月 14 日　「育ちゆく芽」風波第 5 回公演 2 幕物（文化祭参加）
11 月 22 日　「育ちゆく芽」公演 2 幕物（京大演劇コンクール）
12 月 7 日　「育ちゆく芽」東京公演　本読み公演 2 幕物（一橋国民劇場）
12 月 18, 19 日　「育ちゆく芽」公演 2 幕物（京大アンコール公演）
1955 年 1 月 14 日　「育ちゆく芽」公演 2 幕物（京都市職労旗開き　京都労働会館）
1 月 19 日　「育ちゆく芽」公演 2 幕物（河上祭前夜祭　立命館学園大ホール）
1 月 20 日　「育ちゆく芽」公演 2 幕物（東山地区協議会主催　修道小学校）
6 月 17~20 日　「育ちゆく芽」風波第 6 回公演 4 幕物（西部講堂）
6 月　「穀倉地帯」巡回公演（府北部）
11 月 20~23 日　「打吹山」公演（京大演劇コンクール）
11 月 26~27 日　「うちぶき山」風波第 7 回公演（文化祭参加）
1956 年 1 月 28~29 日　「阿 Q 正伝」風波第 8 回公演（河上祭参加）
6 月 22~24 日　「醒めて歌え」風波第 9 回公演（西部講堂）
12 月　「峠三吉の青春」風波第 10 回公演
1957 年 6 月　「獅子」風波第 11 回公演（西部講堂）
7 月　「獅子」巡回公演（山陰地方）
12 月　「明日を紡ぐ娘たち」風波第12 回公演
1958 年 6 月　「島」風波第 13 回公演
12 月　「中二階のある家」風波第 14 回公演
1959 年 11 月　「漁港」風波第 15 回公演
1960 年 6 月　「怒りの夜」風波第 16 回公演
12 月　「朴達の裁判」風波第 17 回公演
1961 年 6 月　「風化」風波第 18 回巡回公演
7 月　「風化」広島巡回公演
12 月　「西陣の歌」風波第 19 回公演）
1962 年 6 月　「島」風波第 20 回公演
12 月　「イルクーツク物語」風波第 21 回公演
1963 年 6 月　「颱風」風波第 22 回公演
6 月　「颱風」伊勢・津巡回公演
6 月　「越呂地」風波第 23 回公演
1964 年 6 月　「おんにょろ盛衰記」風波第 24 回公演

「育ち行く芽」

今回の研究会報告の概略は京都民報 8 月 5 日号に掲載されました。当時の劇団関係者からお手紙や電話をいただきました。